施設概要

診療時間／診療受付時間
午前／ 8:30〜11:30
午後／15:00〜17:00

休診日／日曜日・祝祭日

病院長 西村 和彦

診療科目
整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科・外科
内科・麻酔科・放射線科・救急科・循環器内科
総合診療科

病床数
一般病棟（一般病床26床、地域包括ケア病床34床）
回復期リハビリテーション病棟（108床） 計168床

日本医療機能評価機構
認定第 JC2529 号

社会医療法人 三車会
貴志川リハビリテーション病院
KISHIGAWA REHABILITATION HOSPITAL

〒640-0401 和歌山県紀の川市貴志川町丸栖1423-3
TEL.0736-64-0061 FAX.0736-64-0063
https://www.mikurumakai.or.jp/

三車会 関連施設住所一覧

たま整形外科
〒640-0424
和歌山県紀の川市貴志川町
井ノ口974-4
TEL：0736-65-2700
FAX：0736-65-2722

こかわリハビリクリニック
〒649-6531
和歌山県紀の川市粉河451-9
TEL：0736-67-7818
FAX：0736-67-7819

在宅総合ケアセンター
赤ひげクリニック
〒649-6123
和歌山県紀の川市桃山町
神田378
TEL：0736-66-9003
FAX：0736-66-9002

介護老人保健施設 **みくるま**
〒640-0401
和歌山県紀の川市貴志川町
丸栖936-3
TEL：0736-64-2800
FAX：0736-64-2820

Acti-va
〒649-6202
和歌山県岩出市根来823-1
TEL：0736-69-0051
FAX：0736-69-0052

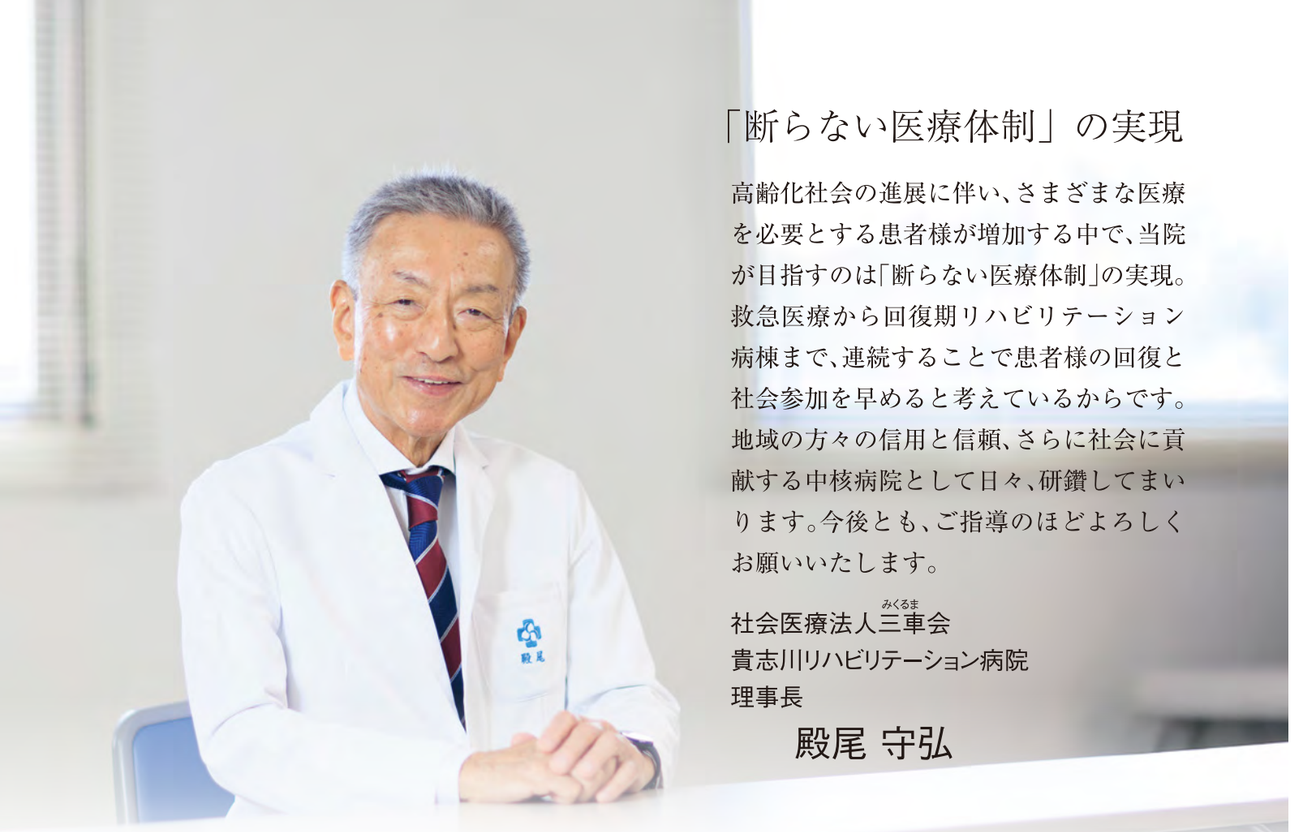
健幸倶楽部ながやま
〒640-0416
和歌山県紀の川市貴志川町
長山583-1
TEL.FAX：0736-86-0000

KISHIGAWA
REHABILITATION HOSPITAL

地域の健康を守り、未来へ育む。



社会医療法人 三車会
貴志川リハビリテーション病院
KISHIGAWA REHABILITATION HOSPITAL



「断らない医療体制」の実現

高齢化社会の進展に伴い、さまざまな医療を必要とする患者様が増加する中で、当院が目指すのは「断らない医療体制」の実現。救急医療から回復期リハビリテーション病棟まで、連続することで患者様の回復と社会参加を早めると考えているからです。地域の方々の信用と信頼、さらに社会に貢献する中核病院として日々、研鑽してまいります。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

社会医療法人三車（みくるま）会
貴志川リハビリテーション病院
理事長
殿尾 守弘

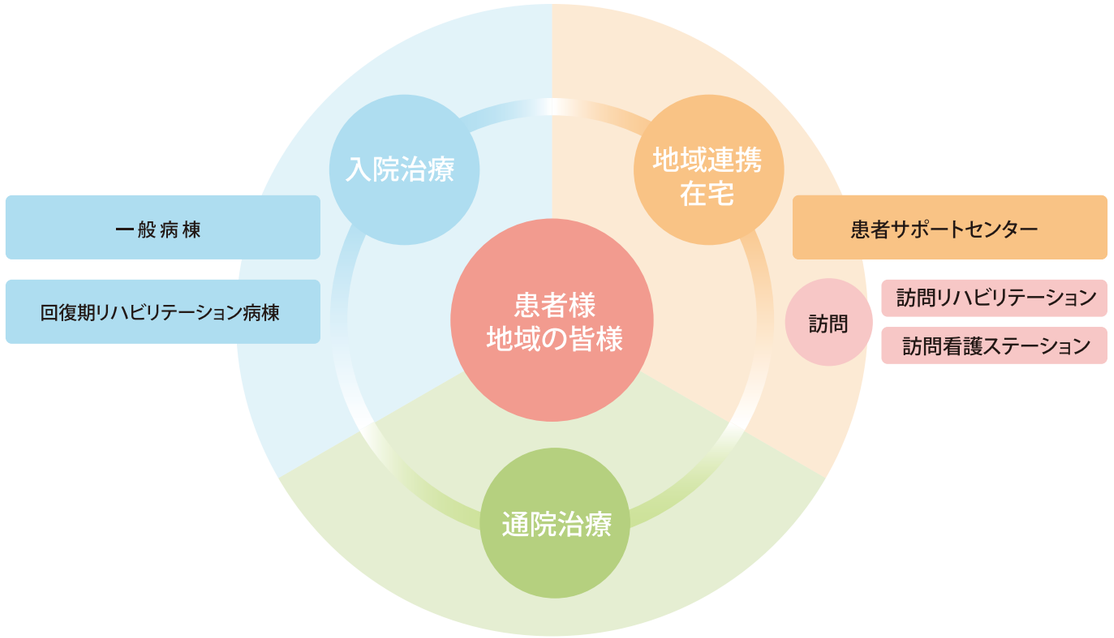
心身ともに、家族も安心できる病院づくり

全国水準の高い医療とケア

40年以上、東京の医療最前線で研鑽を積み、消化器外科を中心に一般外科、がん診療、内視鏡診療のほか、術前・術後の管理にも尽力してきました。地元の和歌山に戻りお届けするのは、全国水準の高い医療とケア。加えて、患者様だけでなくご家族にも寄り添う思いやりの心。院内連携のチーム医療による包括的な支援で、心身ともに、早期復帰に向けたご家族も一緒に安心できる病院づくりに努めます。

社会医療法人三車（みくるま）会
貴志川リハビリテーション病院
病院長
西村 和彦

地域住民の健康を守る中核病院の役割



整形外科　脳神経外科　リハビリテーション科
内　科　循環器内科　総合診療科
専門外来

24時間救急医療体制
救急患者の受け入れを365日24時間体制で対応。

災害支援病院
災害発生時に災害医療を行う災害拠点病院を支援。

地域連携
大学や公立の急性期病院のほか、地域の病院・施設・クリニックと連携。

地域リハビリテーション包括支援センター
地域包括ケアを支えるため、関係機関の連携支援体制等を構築。

三車会　関連施設

たま整形外科
こかわリハビリクリニック
赤ひげクリニック
介護老人保健施設みくるま
Acti-va
健幸倶楽部ながやま

今後、ますます地域に根ざしたサービスへと変化する医療。当院は、地域における医療の中心的な役割を担う中核病院として、専門的知識を持ったスペシャリストたちが、質の高い医療を提供。受診から社会生活への復帰まで、切れ目のないライフサイクルサポートで、患者様や地域の皆様の健康を守ります。



整形外科

安心と信頼の高精度な治療
院内連携で早期回復・社会復帰

日常生活を支えるのは、運動器の健康と維持。痛みや機能障害を改善し、損傷前の快適な生活を取り戻すことを第一目標としています。
骨、関節、筋肉、靭帯など運動器の病気やケガが専門。日々の生活からスポーツまで、早期復帰に向けたリハビリテーションとの院内連携で、一人ひとりに最適な治療を提供しています。
また地方にあって国内最高水準の技術躍進を目指し、県内初のロボティックアーム等を導入。医師の確かな目と高度な技術、さらに先進テクノロジーを駆使することで、早期回復を促す安全で質の高い医療を実現しました。

ロボティックアーム
人工関節の置換手術を支援。高度なナビゲーションとロボット技術を融合したもので医師の手術操作を助け、治療計画通りの安全かつ正確な手術を可能にします。



看護の力

自己決定を支援し
共にゴールをめざすケア

目指すのは、リハビリテーション理念のもと、ADL（日常生活動作）の向上・QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上に向け自律への支援を行い、対象者の方に「大切にされた」と感じられるケアを提供することです。
一人ひとりの状態を正確に把握し、笑顔で声かけを心がけています。さらに高度な知識・技術力に加え、さまざまな医療職種や他施設と連携し、対象者へのより質の高い包括的なケアを実践しています。
また、看護職員の人材育成、キャリアアップ支援、家庭や子育て支援等、個々の状況に応じた働きやすい環境づくりにも努めています。

移乗用リフト
ベッド上から車イスへの移乗など、体を持ち上げて移動する目的で使用。患者様の安全・安心に加え、看護師を含む介助者の腰痛予防にも配慮しています。

歯科衛生士
口腔管理はまさしく全身管理。舌や歯、虫歯や入れ歯のチェックなど、患者様の口の状態を整えることで、より良いリハビリに繋げる役割を担っています。

◯ チームで支える専門職

**医師と専門職員が連携し、
患者様の健康を総合的にサポートします。**

放射線技師
365日完全当直制により迅速に検査が行える体制。「迅速かつ丁寧」に、医療安全や被曝低減にも配慮して日々業務に取り組んでいます。

薬剤師
患者様一人ひとりに不安なく医療を受けていただくために、調剤業務のほか、チーム医療に薬剤師も積極的に参加し最適な医療を提供します。

臨床検査技師
患者様と直接関わる生理機能検査を中心に行っています。臨床検査技師が的確かつ迅速に医師と連携し得られた情報を報告します。

管理栄養士
医師の指示に基づき食事をおいしく食べられるよう提供します。他職種と連携した栄養サポートチームを確立し、患者様への適切な栄養管理も行っています。

◯ 診療支援（医療クラーク）

チーム医療の一員として。

医師の指示によりクラークが事務業務を行い、医師の診療をサポートします。患者様に向き合う診療時間を、より多く設けられる環境を整えています。
医師のみならず、各専門職との橋渡し的な役割も担い、チーム医療の一員として業務に努めています。



◯ 患者サポートセンター

患者様とご家族の「総合相談窓口」。

双方が望む理想的な医療とケアを、入院や通院中だけでなく、退院後も含めて相談に応じています。病気や療養のことから、医療保険をはじめ利用できる制度、介護保険サービス等、医師や看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、事務スタッフと、多職種が連携してサポートします。





リハビリテーション

卓越した技術と知識で実践
信頼に値する攻めのリハビリテーション

リハビリテーション部のコンセプトは、「信頼に値する攻めのリハビリテーション」です。
医師を中心に多職種と協力し、安心して在宅復帰や社会復帰を達成するため、退院後の状況をイメージした実践的なプログラムを追及し、患者様の能力が最大に発揮できるよう積極的なリハビリテーションを心がけています。
愛を持って患者様と接することができるスタッフを育成し、恵まれた環境の下で地域はもとより、県内外から選ばれる病院を目指しています。



約100名の専門職が全力でサポート

当院には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が約100名在籍し、入院や外来、訪問にてリハビリを提供しています。法人内には介護保険サービスの事業所も多数あり、患者様の状態に合わせて切れ目ないリハビリサービスを提供しています。

私たちに支援できること

リハビリテーション部では以下の生活動作や社会復帰に向けたリハビリを中心に提供します。

移　動　　食　事　　排　泄　　入　浴

会　話　　作　業　　運　転　　仕　事

◯ 積極的なリハビリテーション

患者様の可能性を最大限に引き出します。



ドライビングシミュレーター
ハンドル操作やアクセル・ブレーキ操作、反応速度や危険予測などの運転行動に関する評価や、仮想運転訓練を行います。教習所とも連携し入院中の実車訓練も可能です。



地元企業とのリハビリ機器開発
歩行時の荷重量を見える化できる荷重センサー計「そくまる」を共同開発し、商品化。現在もリハビリや日常生活に活用できる機器開発をすすめています。



日常生活（ADL）活動訓練
浴室をはじめ和室、キッチン、トイレなど、自宅の環境を再現した練習エリアがあります。患者様のニーズに合わせて退院後の生活を想定した訓練を行います。

◯ 専門職のさまざまな役割

自宅復帰や社会参加を促進する専門職。状態や目標に合わせて連携し個別的な支援を実践。



理学療法士（PT）
医師の診断・指示のもと、運動機能やバランス能力を評価し、日常生活動作の獲得に向けて患者様の状態に応じた訓練を提供します。



作業療法士（OT）
日常生活や社会参加を再開できるように、個々の状態に合わせたプログラムを提供します。患者様に寄り添い、その人らしい生活を取り戻すお手伝いの役割を担っています。



言語聴覚士（ST）
「聞く」「話す」が難しくなる失語症に対するリハビリを行い、コミュニケーションの支援をします。「食べる」ことが難しくなった患者様には嚥下機能の改善を目指した訓練を行います。